

地域ユースダイレクターの設置に関して(案)

1. ユース育成年代の現状と課題

(1) 国体少年の部 U-16 化による大会の変化

2005年以前		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
U-18	代表(U-18)	アジア予選に向けてのキャンプ							U-20アジア1次予選				
	プリンスリーグ	プリンスリーグ	プリンスリーグ	プリンスリーグ	プリンスリーグ	プリンスリーグ	高円宮U-18						
	高体連	インターハイ地区予選	インターハイ県予選	インターハイ	インターハイ	インターハイ	高校選手権予選				高校選手権		
	クラブ連盟	クラブユース県予選	クラブユース地域予選	クラブユース	クラブユース	クラブユース	JU-スカップ						
	国体U-18				国体強化TR	ミニ国体	国体						
U-16	代表(U-16)	アジア予選に向けてのキャンプ							U-17アジア最終予				
	高校生												
	中学生	クラブユース県予選	クラブユース地域予選	クラブユースU-15	クラブユースU-15	クラブユースU-15	高円宮U-15県	高円宮U-15地域	高円宮U-15				
		春季大会		総体予選県、市町	全中								

2006年以降		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
U-18	代表(U-18)	アジア予選に向けてのキャンプ							U-20アジア1次予選				
	プリンスリーグ	プリンスリーグ	プリンスリーグ	プリンスリーグ	プリンスリーグ	プリンスリーグ	高円宮U-18						
	高体連	インターハイ地区予選	インターハイ県予選	インターハイ	インターハイ	インターハイ	高校選手権予選				高校選手権		
	クラブ連盟	クラブユース県予選	クラブユース地域予選	クラブユース	クラブユース	クラブユース	JU-スカップ						
	国体U-16		マッチデー	マッチデー	マッチデー	ミニ国体	マッチデー	国体		マッチデー	マッチデー	マッチデー	マッチデー
U-16	国体U-16		マッチデー	マッチデー	マッチデー	ミニ国体	マッチデー	国体		マッチデー	マッチデー	マッチデー	マッチデー
	中学生	クラブユース県予選	クラブユース地域予選	クラブユースU-15	クラブユースU-15	クラブユースU-15	高円宮U-15県	高円宮U-15地域	高円宮U-15				
		春季大会		総体予選県、市町	全中								例(関東)

(2) 各大会の課題と方向性

種別	カテゴリ	連盟	活動(代表・大会)	現状の課題	今後の方向性
2種	U-18	JFA	U-20代表活動	所属チームと代表チームの召集	マストで召集する活動の早めの告知及び、所属チームがプリンスリーグをリーグ全体として捉えて召集時点での順位等で辞退に至らないような関係の構築
			高円宮U-18	大会方式及び規模と時期の検討	プリンスリーグにホーム&アウェイ方式が取り入れられる年間計画の作成。
			プリンスリーグ	地域割りの検討	特定のチームに実力差のあるプリンスリーグで地域を統合したブロックリーグの必要性の検討。
		高体連 クラブユース Jアカデミー	高校選手権、インターハイ クラブユースU-18 JU-スカップ	予選時期と方法の検討	JFA2,3種リーグプロジェクトと連携しながら、各連盟の枠を取り除いた年間を通した能力別の機軸となるリーグ戦を創出する為に、予選形式等の検討。
3種	U-16	JFA	U-17代表活動	所属チームと代表チームの召集	マストで召集する活動の早めの告知及び、所属チームがプリンスリーグをリーグ全体として捉えて召集時点での順位等で辞退に至らないような関係の構築
		国体少年の部	国体の短期連戦のトーナメントの大会形式 代表召集される選手の過密日程	M-T-Mの確保の為にトレセンマッチデーの確立	
		47FA	トレセンマッチデー	プリンスリーグとの日程に重複または連戦 マッチデーの創出と有効性	U-18年代と比べると入数は少ないが、所属チームで既にレギュラーポジションを獲得している選手は代表、国体、所属チームで過密になっている選手のチーム間の調整 ミニ国体での情報流出を恐れて2ndチームで参加するFAに国体U-16化とマッチデーの意義を理解してもらう
	JFA 中体連 クラブユース	高円宮U-15 中学校総体、他 クラブユースU-15	大会方式及び規模と時期の検討 予選時期と方法の検討	JFA2,3種リーグプロジェクトと連携しながら、各連盟の枠を取り除いた年間を通した能力別の機軸となるリーグ戦を創出する為に、予選形式等の検討。	
	U-14	JFA	ナイフカップ	大会方式及び規模と時期の検討	全国大会の有無の再検討(この年代でチームとして勝利至上主義になっている部分がある) U-13に於ける年齢の検討(47FAでのU-14リーグの必要性)
		Jアカデミー	U-13・14リーグ	トレセンマッチデーとの関係	トレセンとして活動しているJチームのトレセンマッチデーでの都道府県トレセンの連形 ナイフカップとの関係を考えJアカデミーのリーグ戦のオープン化の検討
4種	U-12	JFA	全国少年大会 チビリンピック	大会方式及び規模と時期の検討	この年代で勝利至上主義になってしまう現状を認識してもらい、いかに改善して行くかを検討できる関係
		47FA	各種大会	低年齢での11人制大会が多い現状	勝利至上主義の排除の共通理解 8体8を含めてスモールゲームの有効性の啓蒙 年齢に応じたアプローチの重要性の啓蒙
	U-10(キッズ)	47FA	各種大会	この年齢での11人制導入している大会がある	勝利至上主義の排除の共通理解 4体4を含めてスモールゲームの有効性の啓蒙 年齢に応じたアプローチの重要性の啓蒙

(3) 成果

国体 U-16 化等により過密になる年代と公式戦から遠ざかる年代のスケジュールの差が緩和されてきた。

プリンスリーグの定着により各連盟主催大会でのシード権が確立されつつあり、過密スケジュールの緩和と拮抗した対戦が増加した。

2, 3 種リーグ改革プロジェクトを立ち上げて、年代別にレベルの拮抗したリーグ戦を年間通して行うリーグ戦改革をスタートした。

(4) 現状と問題点

国体少年の部が U-16 化した事等により種別を超えた活動の増加し負担感が増加した。

所属チームのゲームと代表活動及び国体活動(ミニ国体、マッチデー等)の調整の必要性。(大会毎に日程調整をしている為、連携が取れていない部分がある)

- ・プリンスリーグとトレセンマッチデーの連戦により、国体チームの選手の招集に関して所属チームとの共通理解が不十分であった。
- ・ミニ国体と全国中学校サッカー大会が重複している地域があった。

所属チームで既にレギュラーポジションを獲得している選手の過密。

- ・国体が U-16 化する前の U-18 年代の選手から見れば、U-16 年代の選手は所属チームでレギュラーポジションを確保している選手は少なく、過密になっている選手の割合は少ないが代表招集される選手の中には過密になる選手も出ている。

リーグ戦は増加したがカップ戦の 1 部に 4 チームリーグ等短期リーグ戦の導入が多い、またレベルの拮抗していない対戦も多くある中で、2,3 種リーグ改革の趣旨を理解し実行するに当たって、既存の大会との問題点の整理そして実行段階での抵抗感がある。

Jリーグアカデミーとの連携の必要性。(各連盟の枠を取り除いた活動の為に)

- ・、 はリンクしており 2,3 種リーグ改革の効果が薄ければ、Jアカデミーによる独自の強化リーグを立ち上げて Jアカデミー独自の強化の検討が行なわれる。

全国大会のあり方(必要性、規模、時期等)の検討

- ・年間を通した能力別リーグ戦を基軸として行く為に全国大会の見直しが必要。

(年代によって日本一を決める全国大会が必要であるかどうかをも含めて検討が必要)

各都道府県内で JFA の改革の本質よりも、大会運営等の負担感が大きく抵抗感がある。

- ・ホーム&アウエーの自主運営が基本であり、運営にエネルギーをとられない事が重要である事をアナウンスしているが、どうしても負担感が増加すると感じられてしまっている、また現場レベルでも既存の大会の勝負に固執してしまい、世界基準から逆算してのいろいろな改革である事が浸透していかない。
- ・2005 年宣言を実現する為の改革であるが、スピードが速すぎて変化に対応できない現状もある。

2. 種別を超えた包括的な調整の必要性

(1) 種別を超えた活動

種別技術委員長が大会の運営委員会と協議して種別内を調整するが、国体 U-16 化のスタートにより種別を超えた活動が増加してきた事、また所属チームと選抜チーム(代表、国体)の調整に関して他の地域とも共通理解を必要とするなど、種別技術委員長では対応できない問題が増えてきた。

(2) 大会間の調整

大会運営が一つの大会の事だけで日程や規模が決まる場合が多く、プリンスリーグとトレセンマッチデーの連戦などの問題が出てきている。JFA の活動と各連盟の大会の全体を観て

スケジュールを組む事が必要になっている。

(3) JFA との連携

世界基準をから逆算した日本サッカーの強化育成を視野に入れた活動が必要になり、改革のスピードが早くなってきている。この事が必ずしも各地域にスムーズに伝達されてはならず浸透していない現状がある。JFA のフィロソフィーを地域スムーズに伝達する事が必要になっている。

3. 地域コースダイレクターの導入

現状の問題点から考え各地域内に 2~4 種全体を調整する地域コースダイレクターを配置する必要があると思われる。そしてコースダイレクターは各地域に於いて JFA が推奨する三位一体+普及の改革の為に、大会の運営視察、トレセン活動、指導者養成、に関わるものとする。

(1) 地域に対しての役割

地域技術委員会のメンバーであり、地域技術委員長を補佐してコース育成(U-18)全般の統括を行なう。また地域の 2,3,4 種の技術委員会を招集する事が出来る。

地域主催大会(プリンスリーグ、高円宮地域大会等)の運営委員のメンバーであり、JFA フィロソフィーを地域に伝達し、日程等全般を包括的に調整(大会のあり方、時期、規模 etc)する。

世界基準からの導かれた JFA の改革の趣旨を地域に伝達し、連携を密にして地域内で方向性を共有する。

地域内の各カテゴリーの大会を視察して選手の発掘を行なう。

地域トレセンコーチとして地域トレセンの責任者になり、選手指導等のトレセン活動全般を行う。

地域トレセンコーチとして U-12NFC の統括責任者となる。

地域トレセンコーチとして地域内の B 級指導者養成コースのスクールマスターとなる。

地域内の A,B 級コーチのリフレッシュ研修を担当(企画は 47FA)する。

女子トレセンコーチと連携し、女子の活動をサポートする。

(2) 47FA に対しての役割

技術委員会に必要性があればオブザーバーとして出席し、JFA のフィロソフィーを伝達し方向性を共有出来る様に各大会の運営等の助言を行なう。

各カテゴリーの大会を視察して選手の発掘を行なう。

トレセン活動に 47FA トレセンコーチと協力しながら選手の指導、育成、発掘を行なう。

47FA 内の地区トレセンに関しても可能な限り助言を行ってゆく。

47FA 技術委員長と協議の上 47FA インストラクター(C 級コース担当)を JFA に推薦する。

47FA チーフインストラクター(47FA インストラクターの中から選出)に対して講習会を開催し、47FA での C 級コーチコース及び C 級リフレッシュコースが円滑な運営を補助する。

4. 地域コースダイレクターの選出方法

優先順位 1

上記の役割が可能である人物を各地域協会から推薦を受け、JFA 技術委員会が承認し任命する。

優先順位 2

JFA 技術委員会の人選し各地域協会の承認を得る。

以上